

e a s y __ ^{にほん}日本ののみもの

URL: <https://youtu.be/woyxB3Xb4M8>

今回は「^{にほん}日本ののみもの」を^{まな}学びながら、^{にほんご}日本語を^{べんきょう}勉強しましょう。
この動画は、^{どうが}前半は少しゆるりのスピードで、^{かんじ}漢字には「ふりがな」があります。
^{こうはん}後半は^{すこ}少しだけ^{はや}速く（+20%）なり、^{かんじ}漢字に「ふりがな」はありません。
^{がくしゅう}学習にお役立てください。

■ ^{わたし}私のこと

^{わたし}私は、^{かわの}川野^{なまえ}こはるといいます。この^{はは}名前は、母がつけてくれました。
^{いま}今、^{わたし}私は^{きょうと}京都にすんでいます。^{かわ}川と^{やま}山がある、^{しぜん}しぜんがきれいな^{まち}町です。^{まいにち}毎日、
^{がっこう}学校に行くときに、^{かわ}川の^{ちかく}ちかくを^{ある}歩きます。^{しがつ}四月には、^{かわ}川のまわりに^{はな}さくらや
^{はな}なの花などいろいろな花が^{はな}さきます。私はその花を^み見るのが好きです。

^{わたし}私が^{ちい}小さいとき、^{ちち}父といっしょに^{やま}山へ^い行ったことがあります。^{ちち}父の^{しゅみ}しゅみは^{やま}山の
ぼりでした。その日はとてもさむくて、「^こ来なければよかった」と^{おも}思いました。
でも、^{やま}山の上で^{うえ}飲んで^のあたたかい^{ちや}お茶が、とても^{あじ}おいしかったです。お茶
の味が、^{こころ}心に^{からだ}しみて、^{こころ}体も心も、^{ちや}ぽかぽかになりました。

それから、いろいろな^{にほん}日本の^の飲みものを^の飲んでみました。^{わたし}私は、とくに^{ほうじ}ほうじ
^{ちや}茶が好きです。においがよくて、^{あじ}あつくても^のつめたくても、^のおいしく^の飲めます。
とても^{あじ}すっきりした味です。

^{きょう}今日は、^{にほん}日本にあるいろいろな^の飲みものを^{おも}しょうかいしたいと思っています。
^{にほん}日本で^{せいかつ}生活するときや、^{にほんじん}日本人と^{はな}話す^{とき}時に、^たやくに^た立つことがあるかもしれません。

■ ^{にほん}日本のお茶

^{にほん}日本では、^{ちや}お茶はとても^{たいせつ}大切なものです。^こ子どもから^{おとな}大人まで、^{まいにち}毎日^{ちや}お茶を^の飲
^{ひと}む人がたくさんいます。^{いえ}家でも^{がっこう}学校でも、^{かいしゃ}会社でも、いろいろな^{ばしょ}場所でお茶が
^の飲まれています。

日本のお茶の中で、いちばんよく飲まれているのはりよく茶です。お茶の色が
みどりいろをしています。においはさわやかで、味は少しにがいです。

りよく茶には、いくつかのしゅるいがあります。たとえば、「せん茶」は、た
いようの光をたくさんあびてそだった茶のはで作られます。にがみが強いです
が、すっきりした味です。

「ほうじ茶」は、茶のはを火であたためて作られます。においがよくて、味も
まろやかです。小さい子や、お年よりも人気があります。

「まっ茶」は、こなになった茶のはを、水やお湯にまぜて飲むお茶です。お茶
の中でもとくべつなもので、「茶道」でもつかわれます。

お茶には、あついお茶とつめたいお茶があります。さむい日にはあついお茶、
あつい日にはつめたいお茶を飲む人が多いです。日本では、きせつにあわせて
飲みものをかえることがよくあります。

日本では、ペットボトルに入ったお茶もよく売られています。コンビニや自動
はんばいきでかんたんに買うことができます。こういうお茶は、どこでもすぐ
に飲めるので、とてもべんりです。

いっぽうで、家では「きゅうす」（ティーポット）をつかって、お茶をいれる
こともあります。茶の葉にお湯をそそぎ、しばらくまってから、湯飲み茶わん
（コップ）にそそぎます。このようにいれるお茶は、少し手間がかかりますが、
味がこくなって、とてもおいしいです。

お茶は、日本のくらしの中で、やすらぎをあたえてくれる大切なものです。日
本の人は、お茶を飲んでいいる時、ほっとすることが多いです。それは、味だけ
でなく、気もちもやさしくなるからです。

■茶道

日本には、「茶道」という文化があります。「茶道」とは、まっ茶をいれる作
法や、心のもち方を大切にする行いのことです。お茶をいれるだけでなく、人
の気もちを大切にすることもふくまれています。

茶道では、おきやくにお茶をいれる人のことを「ていしゅ」といいます。てい
しゅは、お茶会をじゅんびして、おきやくにお茶をいれます。

おきゃくが^き気もちよくすごせるように、^{こころ}心をこめて、^{ちゃ}お茶をいれます。^{うご}動きはゆっくりで、しずかです。

まっ^{ちゃ}茶をいれる^{まえ}前に、ていしゅは、^{ちゃ}茶わんや^{どうぐ}道具をていねいにあらいます。それは、おきゃくに「^{ありがたう}ありがとう」の^き気もちを^{かたち}形でしめすためです。そして、^{ちゃ}茶わんの^{まえ}まえで^{おじぎ}おじぎをしてから、^{ちゃ}お茶をいれます。

^{ちゃ}お茶をいれる^{とき}時の^{うご}動きは、とても^{うつく}美しく、^{おと}音も^{ちい}小さくてしずかです。^{ちゃ}お茶のいろ、^{おと}におい、そして^{お茶}お茶を^{たてる}たてる^{おと}音まで、すべてが^{さとう}だいじです。^{ちゃ}茶道は、^め目と^{みみ}耳と^{こころ}心で^{たの}楽しむものです。

おきゃくは、^{ちゃ}お茶をもらったら、まず「いただきます」といいます。^{ちゃ}茶わんを手にとり、ゆっくりとまわしてから、^{お茶}お茶を^の飲みます。このときも、まわりの^{ひと}人や^{ていしゅ}へへの^{かん}感^ししゃの^き気もちをわすれません。

^{ちゃ}お茶の^{あじ}味は、^{なが}にがいこともあります。でも、その^{なか}にが^のみの中に、^{あじ}ふかい^{あじ}味わいがあります。ゆっくり^の飲んで、^{こころ}心がしずかになるような^き気もちになります。

^{さとう}茶道は、^{せいかつ}ふだんの^{なか}生活の中で、^み見^なす^{ちい}ご^きしてしまうような^{こころ}小さなことに^き気づく^{こころ}心をそだてます。たとえば、^{ふゆ}冬の中の^{ちい}小さな^{はな}花や、^{かぜ}風の^{おと}音に^き気づくようになります。^{さとう}茶道を通して、^{なか}くらしの中に^{うつく}ある^み美しさを^み見つけることができます。

^{にほん}日本では、^{さとう}茶道を^{ひと}ならっている^{おお}人も多いです。そして、^{がいこく}外国の^{ひと}人も、^{さとう}茶道を^いい^{けん}で^{ばしょ}きる^{おと}場所があります。^{お茶}お茶を^の飲むだけでなく、^{にほん}日本の^{こころ}心に^ふれることができる^{たいせつ}大切な^{じかん}時間です。

■ ^のあまい飲みもの

^{にほん}日本には、^{あじ}あまい^の味の^な飲みものもたくさんあります。^{なか}中でもとくべつなのが「^{あまざけ}あまざけ」です。^{あまざけ}あまざけは、^{こめ}米と^{みず}水で^{つく}作られた^の飲みものです。^{さとう}さとうは入っていませんが、とてもあまい味がします。

^{あまざけ}あまざけは^{なまえ}名前に「^{さけ}さけ」が入っていますが、^{はい}アルコールが入っていない^{いしゅ}しゅるいもあり、^こ子どもでも^の飲めるものがあります。^{ふゆ}冬になると、^{いえ}家や^{みせ}店で^の飲まれることがふえます。^{あたたかい}あたたかいあまざけを^の飲むと、^{からだ}体がぽかぽかしてきます。

あまざけは、冬のまつりや、新年の行事の時にもでできます。じんじやおま
いりしたあとに、あまざけをもらって飲むと、心も体もあたたまります。日本
の人にとって、冬の楽しみの一つです。

ほかにも、あまい飲みものとして「カルピス」があります。カルピスは、しろ
くて とうとうとした 飲みものです。すこしすっぱい味がして、でもとてもあ
まいです。水や牛にゆうでうすめて飲むことが多いです。そのまま飲むと、味
がこいので、すこし水を入れて飲むと、ちょうどよくなります。おやつの時や、
おふろのあとに飲むと、心がやさしくなるような味です。

カルピスには、二つのタイプがあります。うすめて飲むタイプと、ペットボト
ルに入っていて そのままのめるタイプです。ペットボトルのカルピスは、コ
ンビニやスーパーでかんたんに買うことができます。
夏には、つめたくして飲むと、とてもすずしく感じます。とくに子どもに人気
です。アイスクリームやキャンディーにも、カルピスの味のものがあります。

ほかにも、いろいろなフルーツジュースがあります。りんご、みかん、ぶどう
など、日本でよくたべられるくだもののジュースがたくさん売られています。
お店では、びんやカン、パックに入ったものをよく見ます。

こうしたあまい飲みものは、おやつの時や、楽しい時間をすごす時に飲まれる
ことが多いです。友だちといっしょにジュースを飲んだり、家でおやつといっ
しょに飲んだりします。にがいお茶がにがてな人も、あまい飲みものなら飲め
ることがあります。

あまい飲みものは、元気がない時や、つかれている時にも、心を明るくしてく
れます。でも、さとうが多いので、飲みすぎにはちゅういがひつようです。

日本では、コンビニや自動はんばいきでも、あまい飲みものがたくさん売られ
ています。きせつごとにあたらしい味が出ることもあります。いろいろな味を
ためしてみるのも楽しいです。

■夏の飲みもの

日本の夏には、とくべつな味の飲みものがあります。その一つが「ラムネ」で
す。ラムネは、あおいびんに入った、あまくてさわやかな飲みものです。つめ
たくして飲むと、体がすずしくなります。

ラムネのびんの上^{うえ}には、「たま」が入^{はい}っています。このたまはガラスでできていて、ふたのかわりになっています。飲む^の時は、キャップでたまをお^おして、中^{なか}におとします。ポン！という音^{おと}がして、びっくりする人^{ひと}もいます。たまをお^おすのも、ラムネの楽し^{たの}みの一つ^{ひと}です。

むかしの日本^{にほん}では、夏^{なつ}まつりの時^{とき}に、よくラムネがのま^のれていました。まつりの夜^{よる}に、ゆかたをきて、やたいでラムネを^かかうのが、楽し^{たの}みでした。今^{いま}でも、夏^{なつ}になると、スーパーやコンビニでラムネを見^みかけます。子^こどもも大人^{おとな}も、夏^{なつ}になるとラムネが飲^のみたくなります。

もう一つ、日本^{にほん}の夏^{なつ}によくのま^のれる飲^のみものが「むぎ茶^{ちゃ}」です。むぎ茶^{ちゃ}は、むぎを^{つく}って作^{つく}ったお茶^{ちゃ}で、色^{いろ}はこ^こい茶色^{ちゃいろ}です。味^{あじ}はにが^にくなく、とてもやさし^いいです。つめたくして飲^のむと、のどがす^すっきりします。

むぎ茶^{ちゃ}は、家^{いえ}で作^{つく}ることもできます。夏^{なつ}になると、大^{おお}きなポットに^いれて、れいぞうこでひ^ひやしてお^おきます。学^{がっこう}校^{しごと}や仕^い事に^{とき}行く時^{みず}、水^いとうに^も入れて持^もってい^いく人^{ひと}も多^{おほ}いです。

子^こどものころ、学^{がっこう}校^{しごと}から帰^{かえ}ったあ^あとに、母^{はは}が作^{つく}ったつめたいむぎ茶^{ちゃ}を飲^のむのがす^すきでした。あ^あつ^いい日^ひでも、そ^{いっ}の^{いっ}ぱい^{げんき}で元^で気が出^でました。

日本^{にほん}の夏^{なつ}はと^とてもあ^あつ^いいですが、つめたい飲^のみものがあると、す^すごしやす^{やす}くな^なります。ラムネのあ^あまい味^{あじ}や、むぎ茶^{ちゃ}のやさしい味^{あじ}は、日本^{にほん}の夏^{なつ}の思^{おも}い出^でとい^いっしょにな^なっています。

ラムネやむぎ茶^{ちゃ}は、夏^{なつ}にしかあ^あまり見^みないもの^{もの}です。だからこそ、夏^{なつ}になると、「あ^ああ、またこの味^{あじ}だ」と思^{おも}います。日本^{にほん}の夏^{なつ}をかん^{かん}じることができ^{でき}る、大^{たい}切^{せつ}な飲^のみもの^{もの}です。

■ コンビニと自動^{じどう}はんばい^のきの飲^のみもの

日本^{にほん}には、コンビニと自動^{じどう}はんばい^のきが、いろい^{いろ}ろな場^{ばしょ}所にあ^あります。町^{まち}の中^{なか}、学^{がっこう}校^{ちか}の近^みく、えき^{えき}のそば^{そば}など、ど^どこでも見^みつけ^{つけ}ることができ^{でき}ます。そこでは、た^たく^くさ^さんのし^しゅ^ゅる^るい^いの飲^のみもの^{もの}を^かかうことができ^{でき}ます。

コンビニには、つめたいジュー^{じゅ}ース^{ース}やお茶^{ちゃ}、あ^あた^たか^かいコー^こー^ーヒー^ーやスー^すー^ープ^ーもあ^あります。ま^まっ^っ茶^{ちゃ}ラ^らテ^てやミ^みルク^くティ^てー^ーなど、日本^{にほん}ら^らしい味^{あじ}の飲^のみもの^{もの}もあ^あります。

フルーツジュースやヨーグルトのドリンクも人気です。飲みものの大きさや味もいろいろあるので、自分の好きなものをえらぶことができます。自動はんばい機でも、つめたいものとあたたかいものの両方が買えます。冬には、あたたかいお茶やコンスープなどがうれしいです。夏には、つめたいむぎ茶やスポーツドリンクがよく売れます。

日本の自動はんばい機のとくちょうは、飲みもののしゅるいがとても多いことです。たとえば、同じお茶でも、りよく茶、ほうじ茶、まっ茶入りのお茶など、いろいろあります。ひとつの自動はんばい機に、三十いじょうのしゅるいが入っていることもあります。

また、自動はんばい機の中には、「ちいきげんてい」のドリンクが入っていることもあります。ちいきげんていとは、その場所だけでしか買えないものです。たとえば、北の町ではりんごジュース、南の町ではシークワサーのジュースなど、ちいきのくだものをつかったドリンクがあります。旅をしながら、その町だけのドリンクをさがすのも楽しみの一つです。

コンビニや自動はんばい機の飲みものは、べんりなだけでなく、日本のくらしやちいきのことを知るきっかけにもなります。どこでも買えて、すぐにのめることから、毎日の生活にかかせないものとなっています。

日本に来た時は、ぜひコンビニや自動はんばい機で、いろいろな飲みものをためしてみてください。きっと、自分だけの好きな味が見つかります。

■おさを飲むときのきまり

日本には、おさを飲む文化があります。大人になると、仕事のあとに上司や同じ会社の人とあつまって、いっしょにおさを飲むことがあります。また、いざかやで友だちと話しながらおさを楽しむ人も多いです。

日本では、おさを飲むことにきまりがあります。二十さいにならないと、おさを飲んではいけません。これは、ほうりつで決まっています。たとえ、少しだけでも、二十さいいかなの人が飲むことはできません。

日本のおさけには、いくつかのしゅるいがあります。たとえば、「にほんしゅ」は、日本で古くからあるおさけです。米と水から作られるおさけで、日本のくらしにふかくかかわっています。

にほんしゅには、つめたいままの「れいしゅ」と、あたためて飲む「あつかん」があります。れいしゅはすっきりとした味、あつかんはやさしい味がします。

「しょうちゅう」も日本のおさけの一つです。米やいも、むぎなどから作られます。にほんしゅよりもアルコールが強いものもあります。しょうちゅうは、水でうすめて飲んだり、おゆでわって飲んだりします。すこし強い味ですが、好きな人も多いです。

「うめしゅ」は、うめの実とさとうで作られた、あまいおさけです。あまい味がするので、おさけがにがてな人にも人気があります。

おさけを飲む時に大切なのは、「飲みすぎにちゅうい」することです。飲みすぎると、体や心にわるいえいきょうがあります。とくに、朝まで飲んでしまったり、ねむれなくなったりすることもあります。また、おさけを飲んだあとに、車をうんてんしてはいけません。おさけが体にのこっていると、あぶないことが起きるからです。おさけを飲んだら、必ず歩くか、でんしゃやタクシーで帰るようにします。

いざかやでは、食べものといっしょに、おさけをゆっくり飲むのがふつうです。友だちと話をしながら、楽しくすごします。おさけをつぎあうことも、日本のマナーの一つです。

日本でおさけを飲む時は、きまりをまもり、まわりの人のことも考えることが大切です。おさけは、楽しい時間をすごすためのものですが、自分の体や生活を大切にすることもわすれてはいけません。

■日本をもっとするために

日本には、たくさんの飲みものがあります。お茶、ジュース、ラムネ、あまざけ、にほんしゅなど、それぞれにちがう味とものがあります。その飲みものをすることで、日本のくらしや文化をもっとふかくりかいます。

たとえば、日本人が毎日飲む「お茶」には、「おもてなし」の心がふくまれています。友だちが家にきた時や、話をするとき、あたたかいお茶を出す人が多いです。それは、「あなたを大切に思っています」という気持ちをあらわしています。

また、「自動はんばいき」や「コンビニ」には、飲みものがたくさんなっています。つめたいお茶、あたたかいスープ、あまいジュースなど、いろいろなしゅるいからえらぶことができます。これも、日本人がべんりで、きもちよくすごすために工夫していることの一つです。

そして、きせつといっしょに飲みものを楽しむことも、日本のくらしのとくちょうです。あつい夏にはつめたいむぎ茶やラムネ、さむい冬にはあまざけやほうじ茶を飲むことで、体も心もとのえます。

飲みものには、「たべもの」とはちがうやさしさがあります。こえに出さなくても、あたたかいお茶をそっと出さだけで、気持ちがたわることもあります。そのやさしさは、日本の人と人とのつながりを大切にする心をあらわしているといえるでしょう。

日本の飲みものをすることは、日本のくらしをすることです。そして、日本の人の心をするにもつながります。これからも、いろいろな飲みものをおして、日本をもっと楽しく、ふかくしていきましょう。

「日本の飲みもの」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。

